

気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト

研究成果  
発表会

# 地球温暖化による

# 「海」と「さかな」の変化

## 日本の海、サケ・サンマ・イカはどうなる？

海水温の上昇と共にサケ、サンマ、スルメイカの漁獲量が減ったと言われている。その一方で、北海道では近年、暖水性のブリが大漁となっている。地球温暖化が進むと、私達の「海」と「さかな」はどう変化するのであろうか？



# 12月4日(木)

平成26年

10:00～16:30

## 東京国際フォーラム D5ルーム

**主催**

農林水産省 農林水産技術会議事務局  
独立行政法人 水産総合研究センター



## 目 次

開催趣旨	1
プログラム	2
<b>【講 演】</b>	
「海」の変化	
I 水温・海流・鉛直混合	3
II プランクトン・基礎生産	9
III 藻場・沿岸生態系	19
「さかな」の変化	
I サケ	23
II サンマ	27
III スルメイカ	31
<b>現状と今後の展望</b>	
日本における温暖化影響評価と適応策	39
<b>【ポスター発表】</b>	
1. 海洋モニタリング①（厚岸沖定線調査）	43
2. 海洋モニタリング②（最近10～20年の黒潮の昇温・加速・低塩分化）	45
3. 海洋・魚類動態モデル	47
4. 海洋低次生態系モデル	49
5. 水産資源を支える動物プランクトン	51
6. 高温飼育の影響	53
7. 藻場の分布変化予測	55
8. 内水面の適応技術	57
9. ノリ育種技術①（地球温暖化によるノリ養殖業への影響）	59
10. ノリ育種技術②（高水温耐性を持ったノリ育種素材の開発に向けて）	61

## 開催趣旨

近年、海水温の上昇と共に日本近海では、サケ、サンマ、スルメイカが獲れなくなったと言われている一方で、北海道では暖水性のブリが大漁となっています。今後、地球温暖化が進むと、私達の「海」と「さかな」はどう変化するのでしょうか？今後の地球温暖化による変化に適切に対応するためにも、精度の高い影響評価が求められています。

農林水産省では、平成 22 年度より、プロジェクト研究「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト」を実施し、その中で、水産分野における地球温暖化への影響評価と適応策の技術開発を強化してきました。その成果を広く国民の皆様や関連業界等に紹介するために、研究成果発表会を開催します。

平成 26 年 1 2 月 4 日（木） 10:00～16:30  
東京国際フォーラム D5 ルーム

主 催  
農林水産省 農林水産技術会議事務局  
独立行政法人 水産総合研究センター

## プログラム

10:00 開会  
10:05 挨拶  
10:10 趣旨説明

### 「海」の変化

10:15～10:45 I 水温・海流・鉛直混合  
水産総合研究センター 小埜恒夫  
10:45～11:15 II プランクトン・基礎生産  
水産総合研究センター 田所和明  
11:15～11:45 III 藻場・沿岸生態系  
水産総合研究センター 清本節夫

ポスターの説明  
ポスターの質疑応答

### 「さかな」の変化

14:00～14:30 I サケ  
水産総合研究センター 永澤 亨  
14:30～15:00 II サンマ  
漁業情報サービスセンター 渡邊一功  
15:00～15:30 III スルメイカ  
水産総合研究センター 木所英昭

### 「現状と今後の展望」

15:30～16:00 日本における温暖化影響評価と適応策  
東京大学 大気海洋研究所 伊藤進一

16:00～16:30 総合討論

講演者・ポスター発表者

和歌山大学 教授 井伊博行

鹿児島大学 教授 門脇秀策

三重大学 名誉教授 天野秀臣